

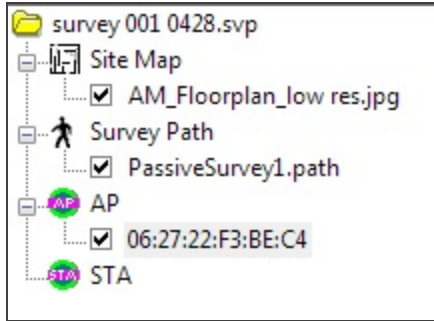
6. ドロップダウンを使用して、周波数帯(メディアタイプ)を2.4GHz、5.0GHz、またはその両方から選択します。
7. ドロップダウンを使用して、SSID(特定のSSIDに関連付ける)またはAP(特定のAPに関連付ける)を選択します。
8. ドロップダウンを使用して、アプリケーションが関連付けるSSIDまたはAPを選択します。
9. 選択したSSIDまたはAPが特定の認証メカニズムを必要とする場合は、「File」>「Configure...」メニューの「802.11」タブまたはWindowsの「ネットワークとインターネット設定」でこの情報を設定します。
10. 詳細については、「802.11パラメータの設定」を参照してください。認証が必要ない場合は、ステップ 9 に進みます。
11. 「Start Survey」▶ をクリックし、測定したいすべてのエリアをカバーするよう計画的なサーベイ経路を歩きます。
 - サーベイは、時間経過とともに自動的にデータポイントの間隔が配置されるので、サーベイを開始するときや方向を変えるときにポイントをクリックするだけで済みます。
 - サーベイを実施している間、サーベイの経路に沿って時々クリックしてデータを保存してください。そうしないと、非アクティブタイマーが自動的にサーベイを一時停止します。(自動一時停止の前に、プロンプトが表示され、カウントダウンタイマーが表示されます)。

Note: AirMagnetは、できるだけ多くのデータを収集するために、通常の歩行よりも遅い、一定のペースを維持することを推奨します。
12. 十分なデータが収集されたら、「Stop Survey」🛑 をクリックします。
13. プロンプトが表示されたら、サーベイデータを保存します。

ローミングプロパティの設定

アクティブサーベイウィンドウの右上にある「Roaming Option」🔗 ボタンを使用して、ワイヤレスネットワークアダプタのローミング機能を制御します。「Roaming Criteria」ダイアログボックスで設定したプロパティに基づいて、アダプタがいつローミングするかを正確に定義できます。以下の図を参照してください。

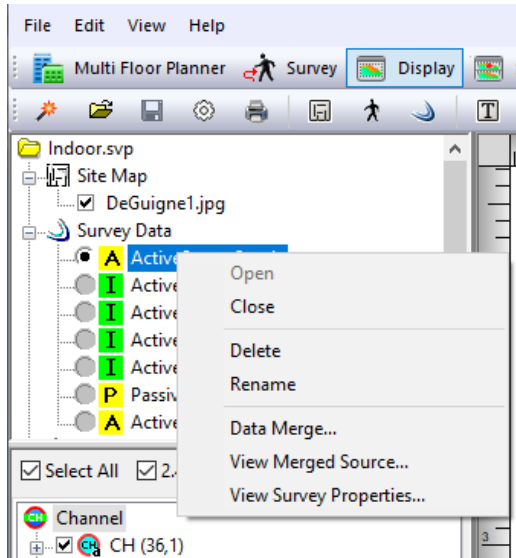
この機能に対応するアダプタのリストは、AirMagnet ウェブサイトの「Preferred Adapters」セクションでご覧いただけます: https://www.netally.com/wp-content/uploads/APA_FL_21_V2.pdf



Right-click Pop-up Menu

SurveyビューとDisplayビューのプロジェクトウィンドウには、右クリックメニューもあります。いくつかのオプションはSurveyビューで利用でき、他のオプションはDisplayビューで利用できます。使用できないオプションはグレー表示されます。

サーベイデータファイルを右クリックすると、右クリックメニューのオプションが表示されます。

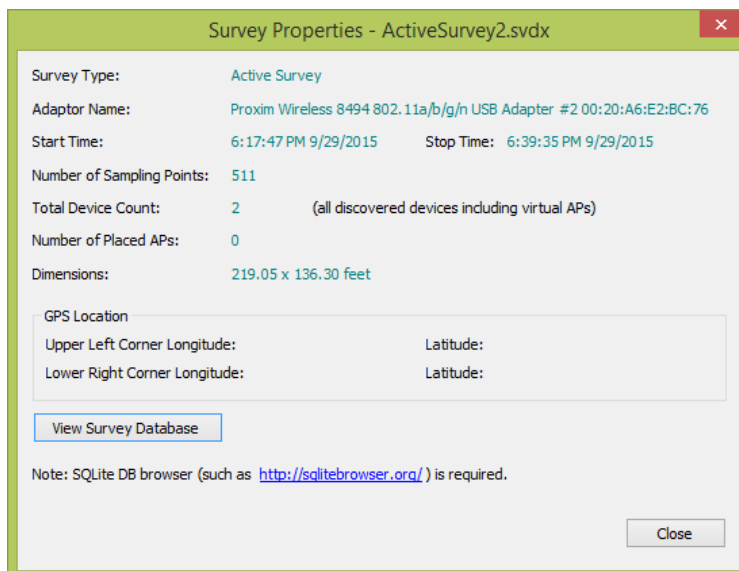


メニューオプション	説明
Close	このデータファイルを閉じます。
Delete	選択した(右クリックした)項目を削除します。
Rename	このデータファイルの名前を変更します。
Data Merge...	2つ以上のデータファイルをマージできます。 Note: このオプションはDisplayビューでのみ使用できます。
View Merged Source ...	マージされたデータファイルの作成元を表示します。
View Survey properties ...	ファイルに関する情報を表示するウィンドウが開きます。

View Survey properties

プロジェクトウィンドウでサーベイデータファイル(.svdx)を右クリックし、ポップアップメニューから「View Survey properties」を選択します。下図のような「Survey Properties」ダイアログが開きます。

Note: このオプションは、Survey バージョン 8.8 以降の「View Raw Data」に代わるものです。「Survey Properties」ダイアログには、選択したサーベイデータファイルに関する情報が表示されます。



View Survey Database

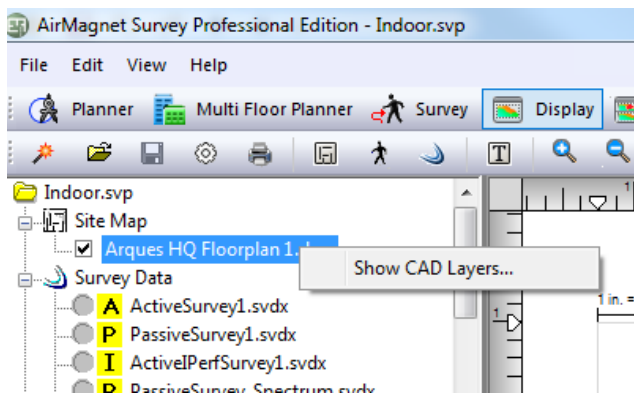
「Survey Properties」には、選択したサーベイデータファイルに含まれるデータベースの詳細を表示するオプションが含まれています。

データベースを表示するには、DB Browser for SQLite などのデータベース ビューア アプリケーションが必要です。<http://sqlitebrowser.org/>からダウンロードできます。

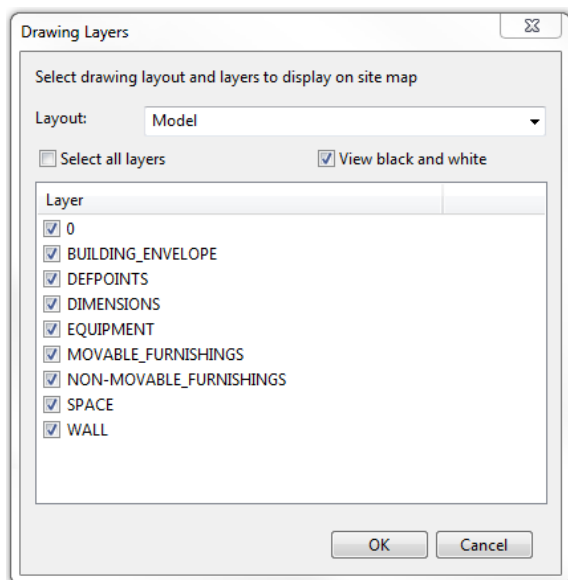
「View Survey Database」をクリックします。Windows から、データベースを目的のデータベース ビューア アプリケーションに関連付けるように求められる場合があります。

右クリックで Show CAD Layers を表示


プロジェクトウィンドウで、AutoCADイメージファイルを右クリックし、「Show CAD Layers...」を選択します。



以下の図のように、[Drawing Layers...] ダイアログが開きます。



Data Window


データウィンドウには、サーベイの進行中に取得されたリアルタイム RF データが表示されます。ツールバーの  (Start Survey) をクリックすると、このウィンドウにデータが表示され始めます。データウィンドウに表示される内容は、選択したサーベイモード (**アクティブ**または**パッシブ**) によって異なります。

アクティブサーベイとパッシブサーベイについては、[Active Survey Data Window](#) と [Passive Survey Data Window](#) を参照してください。

Media Type Button

NOTE: 特定の非推奨アダプタは複数のバンドを自動的にスキャンするため、そのようなアダプタが使用されているときは、「Media Type」ボタンは表示されません。

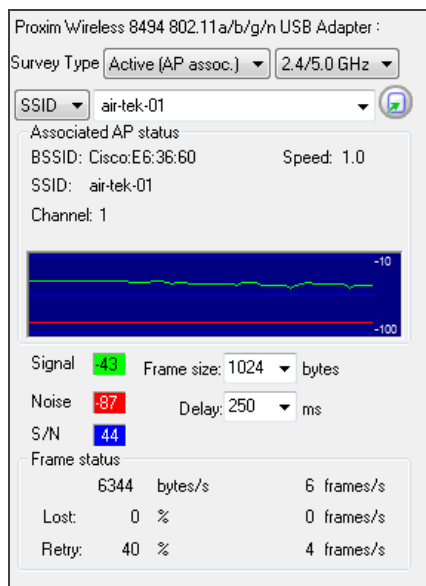
NetAlly は、サイトサーベイを開始する前にメディアタイプを選択することを推奨します。これにより、サーベイ中に特定のタイプのメディアを使用しているAPIに焦点を当てることができます。

 (Media Type) ドロップダウンは、Surveyビューのデータウィンドウにあります。このボタンをクリックすると、ワイヤレスネットワークカードによって収集および表示されるデータのタイプを決定するメディアタイプのドロップダウンメニューが表示されます。以下のオプションがあります：

- **2.4 GHz:** 2.4GHz帯のAPからのデータのみをスキャンします。(通常、802.11b/g/n/ax メディアタイプ)
- **5.0 GHz:** 5.0GHz帯のAPからのみデータをスキャン(通常、802.11a/n/ac/ax メディアタイプ)
- **2.4/5.0 GHz:** 両方の帯域からのデータをスキャンします。

Active Survey Data Window

以下の図は、2.4 GHz と 5 GHz の両方の帯域をサポートするアダプタを使用して AirMagnet Surveyがアクティブサーベイ モードに設定した場合のデータウィンドウを示しています。



オプション	項目
Adapter	サーベイに使用するアダプタは、ウィンドウの上部に表示されます。
Survey Type	オプションは、Active、Passive、およびActive iPerf です。
Media Type	オプションは 2.4 GHz、5.0 GHz、またはその両方です。
SSID/AP	アクティブサーベイ中に特定のAPまたはSSIDを選択するには、ドロップダウンメニューから選択します。
Roaming	サーベイのローミング基準を設定できます。 ローミングプロパティの設定 を参照してください。
BSSID	関連付けられているAPの名前とMACアドレス。
SSID	関連付けられたAPが属するネットワークの名前。
Speed	パケットが送信される速度 (Mbps)
Channel	APが RF 信号の送受信に使用する無線チャンネルで、プライマリチャンネルとセカンダリチャンネル、チャンネル帯域幅、チャンネルスパンが含まれます。
Signal	受信したパケットの信号強度。値が大きいほど信号が強くなります。
Noise	スキャンされる帯域 (2.4GHz、5GHz) のバックグラウンド無線周波数エネルギーのレベル。値が低いほどノイズが少なくなります
S/N	信号/ノイズ比。信号データを周囲のノイズの量と比較します。
Frame Size	送信されるフレームのサイズ (バイト単位)
Delay	連続した送信間の時間 (マイクロ秒単位)
Bytes/s	1秒間に送信される(データの)バイト数。
Frames/s	1秒間に送信される(データの)パケット数。
Lost	APから正常に送信されなかったパケットの割合と数。
Retry	APから正常に送信されなかったパケットの割合と数。

Passive Survey Data Window

以下の図は、2.4 GHz と 5 GHz の両方の帯域をサポートするアダプタを使用して、パッシブサーベイモードに設定した場合のサーベイ中のデータウィンドウを示しています。

Note: パッシブサーベイ中、Hidden SSID のAPが検出された場合、ブロードキャスト SSID のAPと区別するため、サーベイページの MAC アドレス欄に表示される AP 名が通常の黒色ではなく赤色で表示されます。





Proxim Wireless 8494 802.11a/b/g/n USB Adapter #

Survey Type Passive 2.4/5.0 GHz

SSID ANY

Channel	MAC Address	Signal Strength	Noise Level	Signal/Noise Ratio	SSID
1	AIR-CAP350...	-39	-87	48	air-tek-03
1	AIR-CAP350...	-39	-87	48	air-tek-01
44	AIR-CAP350...	-39	-93	54	air-tek-03
1	AIR-CAP350...	-39	-87	48	air-tek-02
1	AIR-CAP350...	-39	-87	48	air-tek-05
44	AIR-CAP350...	-40	-93	53	air-tek-02
44	AIR-CAP350...	-40	-93	53	air-tek-01
44	AIR-CAP350...	-40	-93	53	air-tek-05
11	lap-baya-2-5	-44	-87	43	DanaherTM
11	lap-baya-2-5	-44	-87	43	
161	KAM-3502i	-46	-92	46	air-tek-01
161	KAM-3502i	-46	-91	45	air-tek-03
11	lap-baya-2-5	-46	-87	41	AuthorizedGuest
161	KAM-3502i	-46	-92	46	air-tek-05

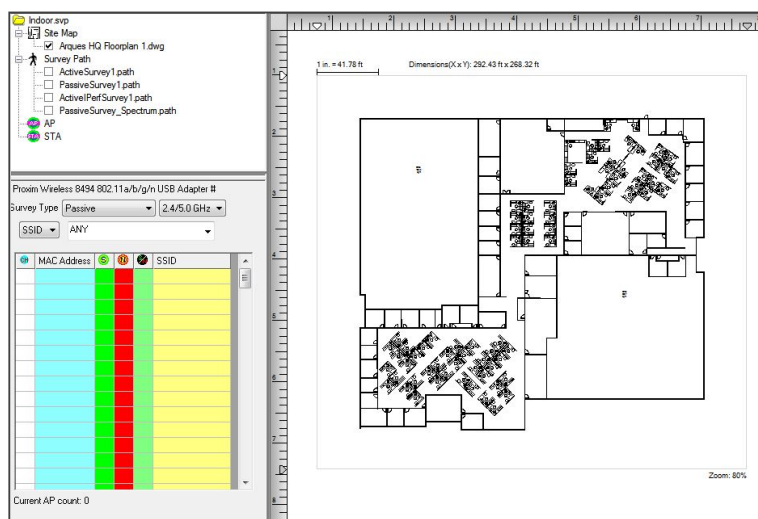
Current AP count: 137

オプション	項目
Adapter	サーベイに使用されているアダプタは、ウィンドウの上部に表示されます。
Survey Type	オプションは、Active、Passive、およびActive iPerf です。
Media Type	オプションは 2.4 GHz、5.0 GHz、またはその両方です。
SSID/AP	サーベイ中にAPまたはSSIDでデバイスを検出します。ドロップダウンにより、サーベイする特定のデバイスを選択するか、検出されたすべてのデバイス(SSID または AP)のデータを取得する ANY を選択できます。
Channel 	各APが使用している RF チャンネルをキャプチャします。Channel 列には、プライマリチャンネルとセカンダリチャンネル、チャンネル帯域幅、チャンネルスパンが表示されます。
MAC Address	各APの MAC アドレス。「Best Name」または「MAC address」のどちらかを表示できます。ウィンドウを右クリックして表示タイプを変更します。
Signal Strength 	APから受信したすべてのパケットの信号強度。
Noise Level 	2.4 GHz または 5 GHz 帯域のバックグラウンド RF エネルギーのレベル。値が低いほど、検出されるノイズは少なくなります。
Signal/Noise Ratio 	ノイズレベルと比較した信号強度。通常、S/N 比が高いほど、信号に影響を与えるノイズが少なくなり、ネットワークパフォーマンスが向上します。
SSID	APが属するネットワークの名前。
Current AP Count	現在検出されているAPの総数。

パッシブサーベイを開始する前に、データウィンドウからマップウィンドウのフロアプランにAPをドラッグ & ドロップすることができます。サーベイを開始すると、このオプションは使用できなくなりますが、サーベイを終了すると、このオプションは「Display」ビューで使用できるようになります。 [Channel/SSID リスト](#)を参照してください。

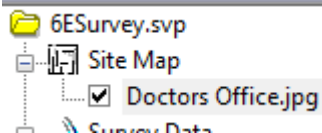
Map Window

以下の図は、2.4 GHz と 5 GHz の「Survey」ビューのマップウィンドウで、サイトマップが表示されています。



デフォルトでは、サーベイプロジェクトを開くと、自動的にマップウィンドウにサイトマップが開きます。サーベイが開始されるとすぐに、APの位置、サーベイ経路、データ収集ポイントなどの情報がマップ上に表示され始めます。サイトサーベイを開始する前に、プロジェクトとサイトマップがサーベイ場所に一致していることを確認してください。

NOTE: プロジェクトウィンドウのチェックボックスをオンまたはオフにすることで、サイトマップの表示を切り替えることができます。



Legend

「Display」ビューの右側には「レジェンド」が表示され、さまざまな配色やパターンを使用して、サーベイデータを表示および解析するためのさまざまな方法が用意されています。

Note: グレーと白色は、ヒートマップに表示され、レジェンドには表示されないことがあります。白色はカバレッジがないことを示します。グレーは、カバレッジ要件が満たされていないことを示しています。

<p>Signal (dBm)</p> <p>0</p> <p>-10</p> <p>-20</p> <p>-30</p> <p>-40</p> <p>-50</p> <p>-60</p> <p>-70</p> <p>-80</p> <p>-90</p> <p>-100</p>	<ul style="list-style-type: none"> レジェンドの上部には、データタイプ(単位を含む)があります。これは表示されるデータのタイプを示します。マップウィンドウの上のデータタイプリストメニューから選択されるものと同じです。 マップウィンドウに表示されるRFデータ(信号、ノイズ、干渉など)の上限または下限を設定するには、レジェンドの下から上、または上から下にドラッグします。 配色を調整することもできます。レジェンドの色設定を参照してください。
---	---